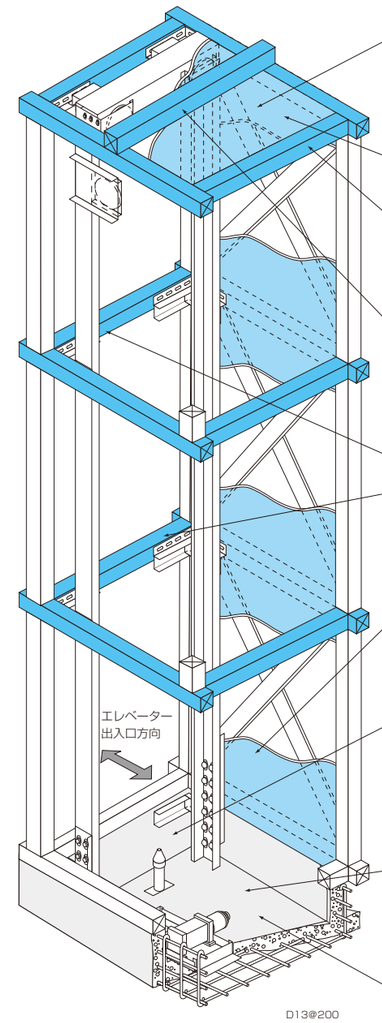
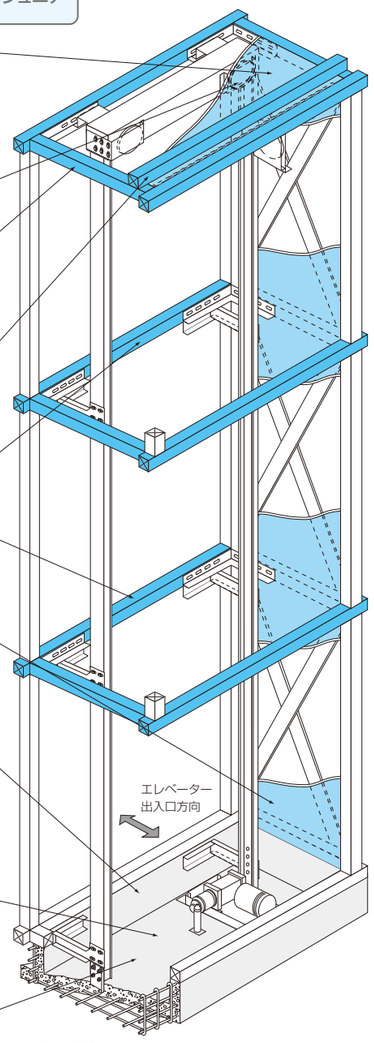
標準断面図

昇降路の構造

グランデ | ファミリー | DX アバンティ | DX 禅
DX ファインウッド | ファミロング | コンパクト | モア グランデ
モア プラス | モア ロング | モア スタンダード | Rプラス



ジュニア



警 告
昇降路の壁は任意の5cm²の面にこれと直角な方向の300Nの力が昇降路外から作用した場合において15mmを超える変形が生じず、かつ塑性変形を生じない構造としてください。

警 告
昇降路は、すき間のない構造としてください。

①荷重支持用梁（頂部）（四方向）

荷揚げ用梁（建築工事）

警 告
吊荷重4900N（500kg）に耐える強度としてください。

②荷重支持用梁（最上階・中間階）（四方向）

昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。

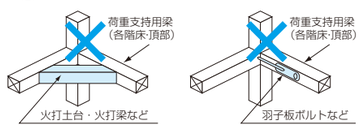
③基礎立上がり部（最下階）

警 告
乗場側厚さ120mm以上の鉄筋入りの基礎立上がりとしてください。

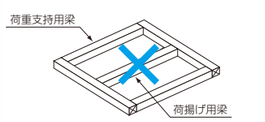
警 告
コンクリート設計基準強度は21N/mm²以上の強度としてください。
（厚さ200mm以上のシングル配筋のコンクリート床としてください）

警 告
ピット内は換気口や排水口などを設けないでください。

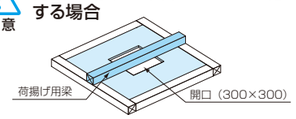
注意 昇降路の内側に接合金物があると、エレベーターを設置できません。



注意 荷揚げ用梁を荷重支持用梁と同じ高さには設置しないでください。



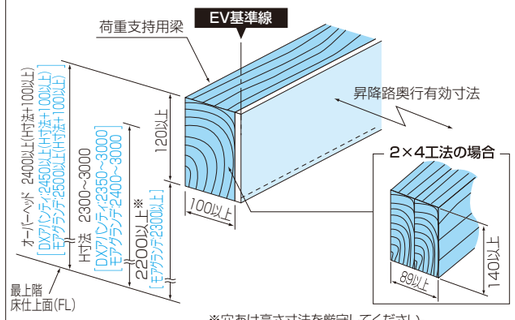
注意 荷揚げ用梁の下部にてボード施工する場合



ボードの中心に300×300の開口を用意してください。また、エレベーター据付後に開口を塞ぎますので、ボードなどを支給してください。

荷重支持用梁（頂部）

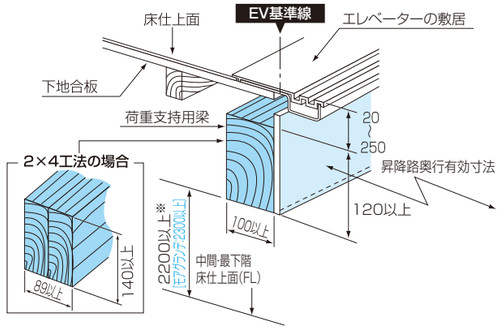
- 頂部の荷重支持用梁は、最上階床仕上面から2400～3000mmの範囲内に梁成120mm以上が納まるように設置してください。
- レール固定用ブラケットを設置しますので、必ず四方同じ高さに設置してください。（左図①）



※穴あけ高さ寸法を厳守してください。

荷重支持用梁（最上階・中間階）

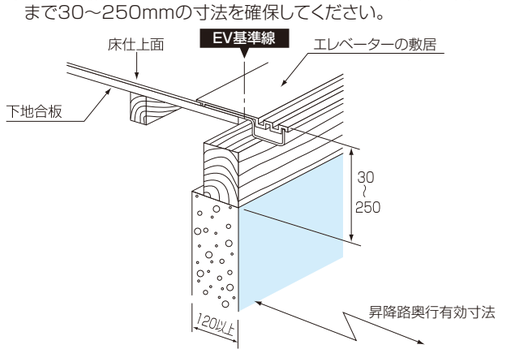
- 最下階を除く各階の荷重支持用梁（床梁）の梁成は120mm以上としてください。
- レール固定用ブラケットを設置しますので、昇降路を囲む荷重支持用梁は必ず四方同じ高さに設置してください。（左図②）
- 乗場機器設置のために、荷重支持用梁上端から床仕上面まで20～250mmの寸法を確保してください。



※穴あけ高さ寸法を厳守してください。

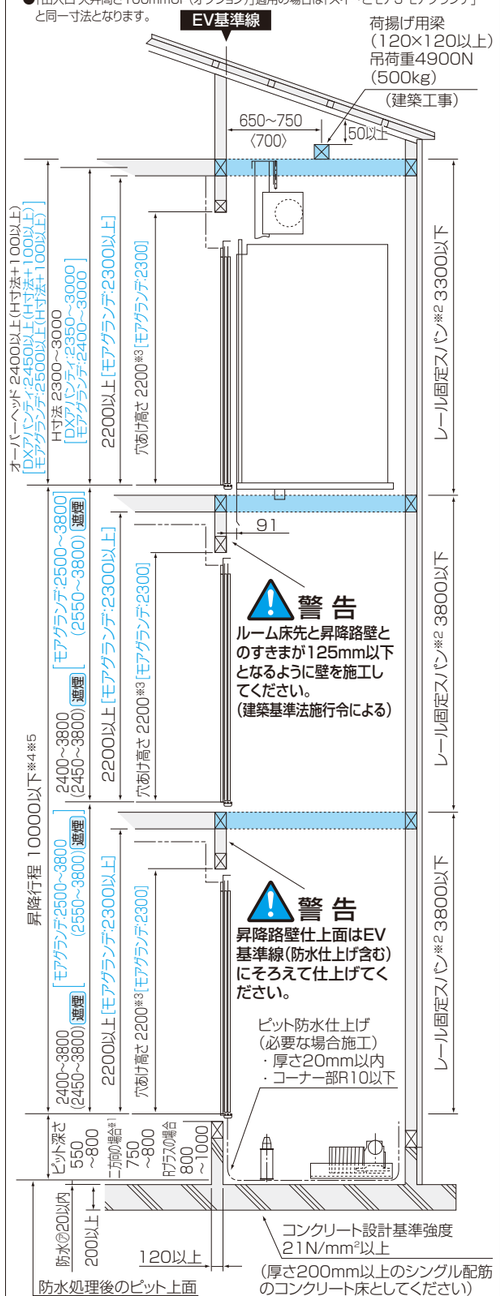
基礎立上がり部（最下階）

- レール固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の基礎の立上がりを設けてください。（左図③）
  また、防水施工の場合は防水面がEV基準線となります。
- 乗場機器設置のために、基礎立上がり天端から床仕上面まで30～250mmの寸法を確保してください。



昇降路断面図

- 遮煙 の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。
- 〈　〉内の数値は「スイ～とホームS ジュニア」の寸法を示します。
- 「出入口-天井高さ100mmUP（オプション）」適用の場合は「スイ～とモアS モアグランデ」と同一寸法となります。



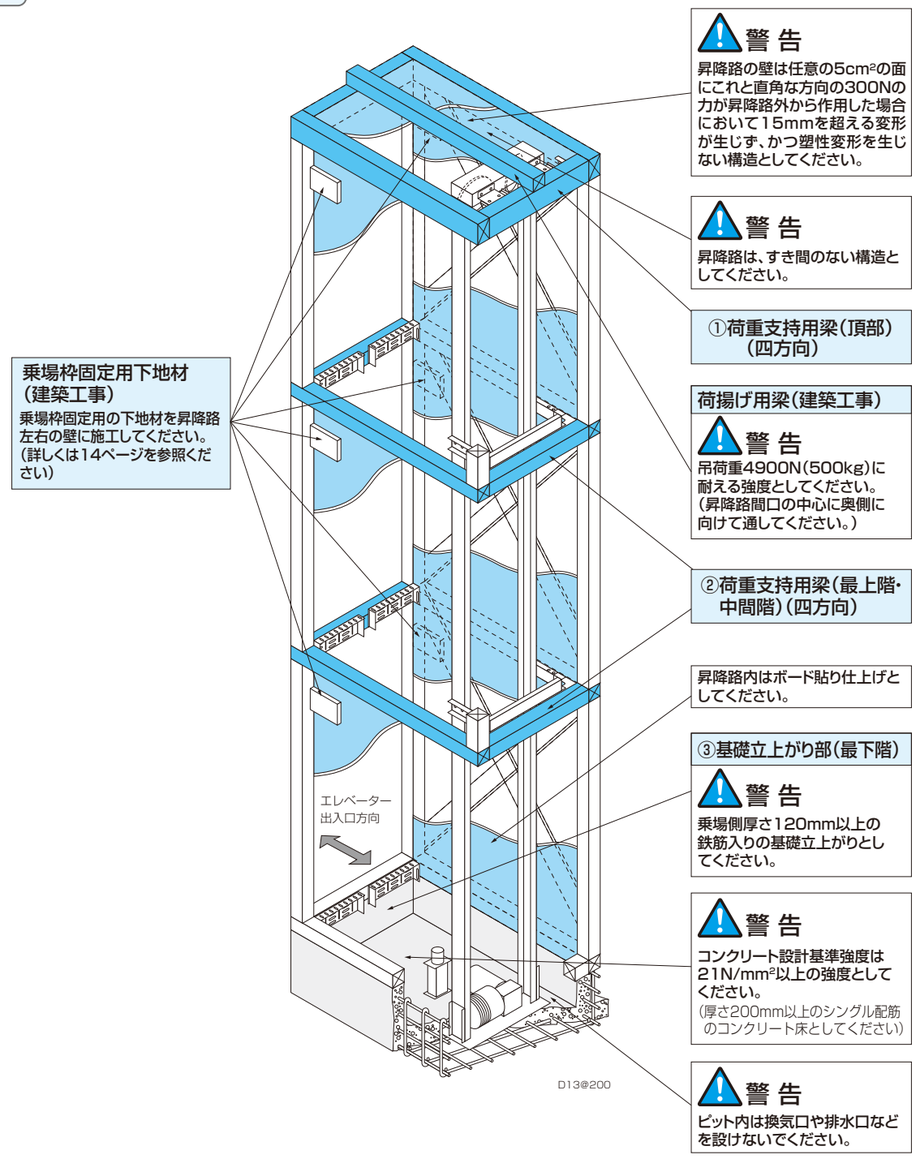
※1 「スイ～とホームS ジュニア」「スイ～とモアS モアグランデ」「スイ～とメゾン Rプラス」は二方向出入口を選択できません。
※2 レール固定スパンが3800mm以下（最上階は3300mm以下）となるように建築負荷荷重を受けるための構造物を設けてください。
※3 穴あけ高さ寸法を厳守してください。
※4 階間は9.3m以下としてください。（令第129条の10、平成20国告第1536号）詳しくは当社までお問い合わせください。
※5 昇降行程10m超仕様（オプション）の適用の場合（ファミリー、DX一方向出入口のみ）昇降行程最大13m。

- EV基準線とは、出入口側の昇降路内面を示します。
- 階高指定寸法範囲の上限を超える場合は、中間部に梁を設けてください。
- 参考：1kgf=9.8N

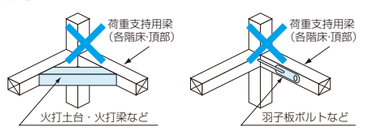
標準断面図

昇降路の構造

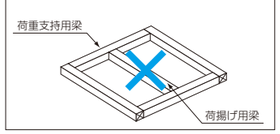
ファミスリム



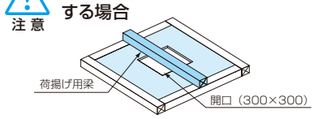
注意　昇降路の内側に接合金物があると、エレベーターを設置できません。



注意　荷揚げ用梁を荷重支持用梁と同じ高さには設置しないでください。



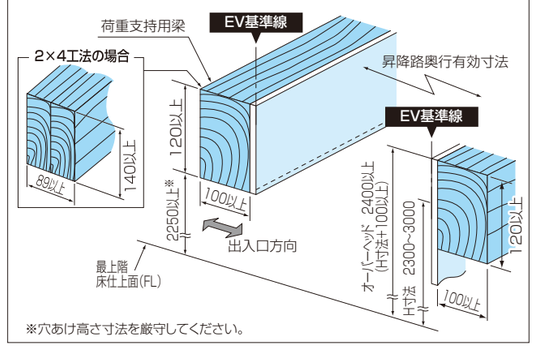
注意　荷揚げ用梁の下部にてボード施工する場合



ボードの中心に300×300の開口を用意してください。また、エレベーター据付後に開口を塞ぎますので、ボードなどを支給してください。

荷重支持用梁（頂部）

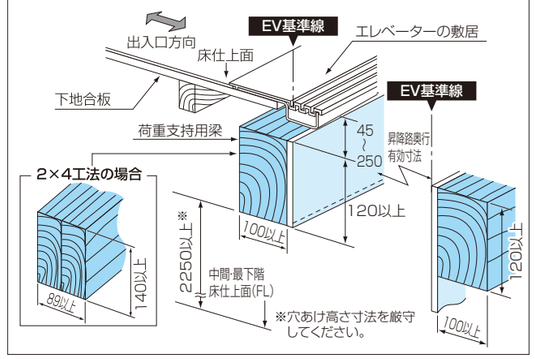
●頂部の荷重支持用梁は、最上階床仕上面から2400～3000mmの範囲内に梁成120mm以上が納まるように設置してください。
●レール固定用ブラケットを設置しますので、必ず四方同じ高さに設置してください。（左図①）



※穴あけ高さ寸法を厳守してください。

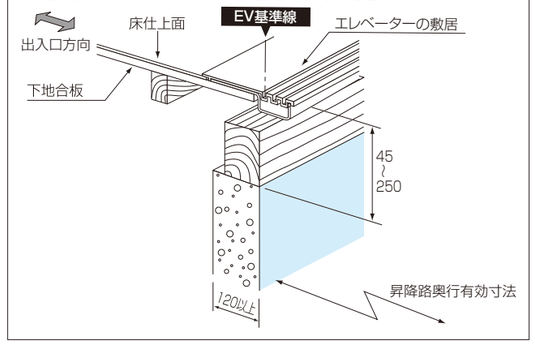
荷重支持用梁（最上階・中間階）

●最下階を除く各階の荷重支持用梁（床梁）の梁成は120mm以上としてください。
●レール・乗場固定用ブラケットを設置しますので、昇降路を囲む荷重支持用梁は必ず四方同じ高さに設置してください。（左図②）
●乗場機器設置のために、荷重支持用梁上端から床仕上面まで45～250mmの寸法を確保してください。

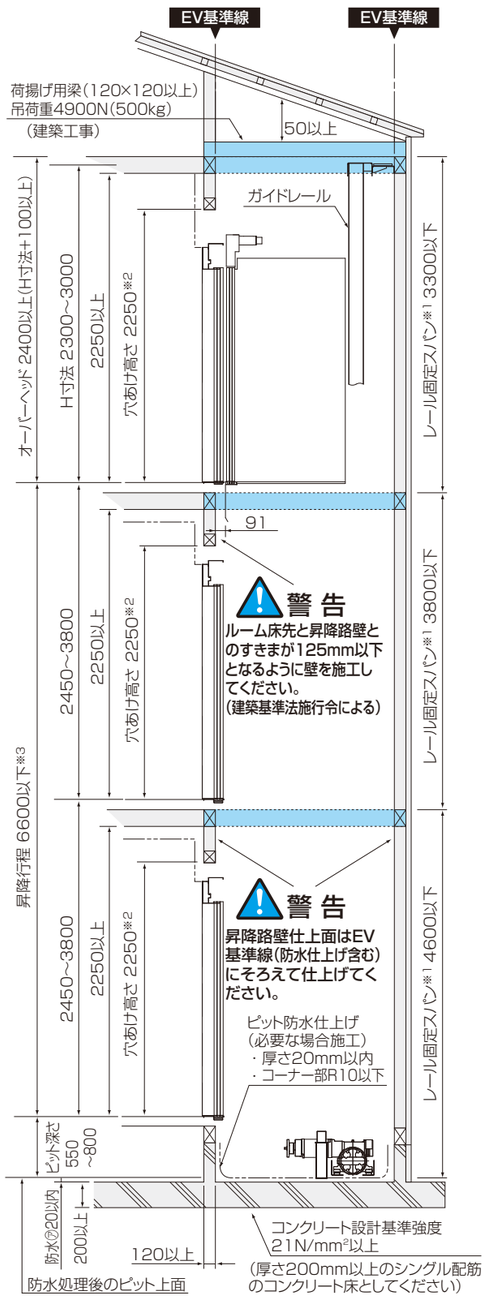


基礎立上がり部（最下階）

●乗場固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の基礎の立上がりを設けてください。（左図③）
また、防水施工の場合は防水面がEV基準線となります。
●乗場機器設置のために、基礎立上がり天端から床仕上面まで45～250mmの寸法を確保してください。



昇降路断面図



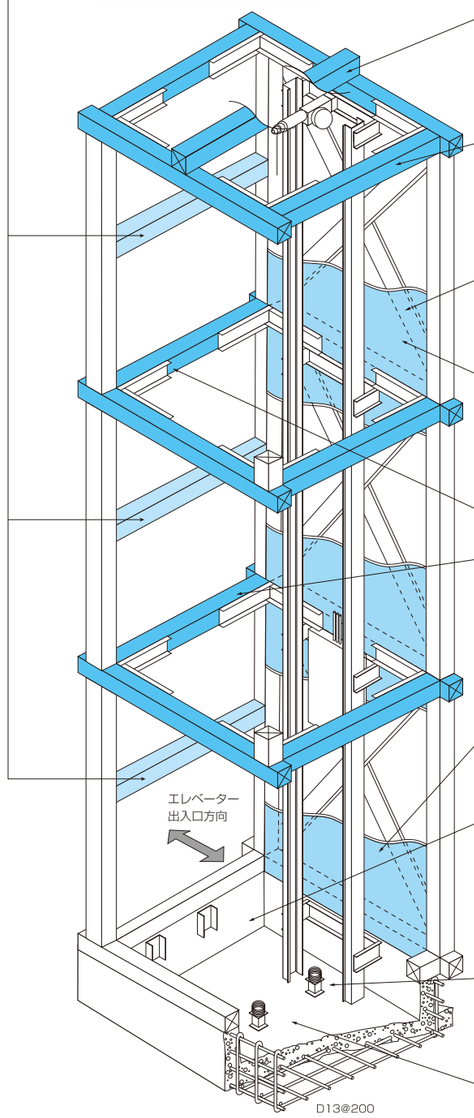
※1 レール固定スパンが下記に示す寸法以下となるように建築負荷荷重を受けるための構造物を設けてください。
最上階：3300mm以下
中間階：3800mm以下
最下階：4600mm以下
※2 穴あけ高さ寸法を厳守してください。
※3 停止箇所数は、最大3停止となります。

●EV基準線とは、出入口側及び背面側の昇降路内面を示します。
●階高指定寸法範囲の上限を超える場合は、中間部に梁を設けてください。
●参考：1kgf=9.8N

標準断面図

昇降路の構造

Rメート



④乗場上部固定用荷重支持用梁（各階）

荷揚げ用梁（建築工事）

警 告

吊荷重4900N（500kg）に耐える強度としてください。

①荷重支持用梁（頂部）（四方向）

警 告

昇降路の壁は任意の5cm²の面にこれと直角な方向の300Nの力が昇降路外から作用した場合において15mmを超える変形が生じず、かつ塑性変形を生じない構造としてください。

警 告

昇降路は、すき間のない構造としてください。

②荷重支持用梁（最上階・中間階）（四方向）

昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。

③基礎立上がり部（最下階）

警 告

乗場側とレール側厚さ120mm以上の鉄筋入りコンクリートの基礎立上がりとしてください。

警 告

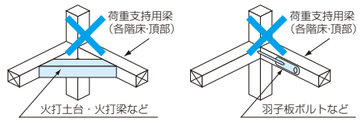
コンクリート設計基準強度は21N/mm²以上の強度としてください。

（厚さ200mm以上のシングル配筋のコンクリート床としてください）

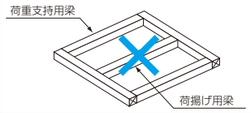
警 告

ピット内は換気口や排水口などを設けないでください。

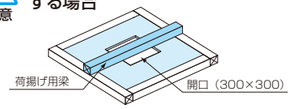
注意　昇降路の内側に接合金物があると、エレベーターを設置できません。



注意　荷揚げ用梁を荷重支持用梁と同じ高さには設置しないでください。



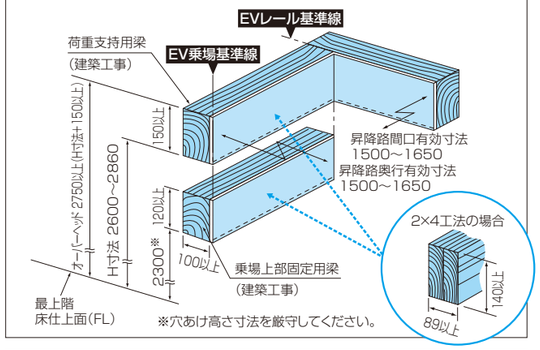
注意　荷揚げ用梁の下部にてボード施工する場合



ボードの中心に300×300の開口を用意してください。また、エレベーター据付後に開口を塞ぎますので、ボードなどを支給してください。

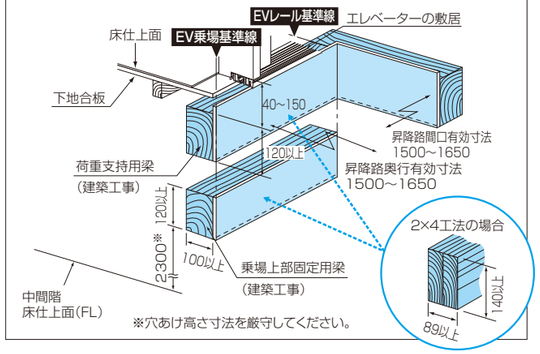
乗場上部およびレール固定用荷重支持用梁（頂部）

- 頂部の荷重支持用梁は、最上階床仕上面から梁下2600～2860mmの範囲内に梁成150mm以上が納まるように設置してください。
- レール固定用ブラケットを設置しますので、必ず四方同じ高さに設置してください。（左図①）
- 乗場上部固定用梁は、最上階床仕上面から梁下2300mmの位置に梁成120mm以上が納まるように設置してください。（左図④）



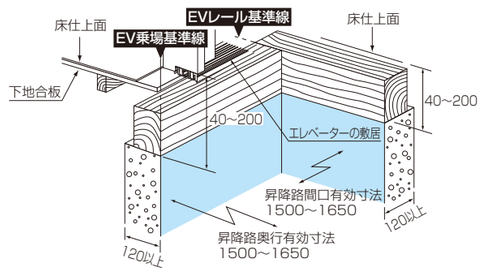
乗場上部・下部およびレール固定用荷重支持用梁（中間階）

- 最下階を除く各階の荷重支持用梁（床梁）の梁成は120mm以上としてください。
- 乗場及びレール固定用ブラケットを設置しますので、昇降路を囲む荷重支持用梁は必ず四方同じ高さに設置してください。（左図②）
- 乗場機器設置のために、荷重支持用梁上端から床仕上面まで40～150mmの寸法を確保してください。
- 乗場上部固定用梁は、最上階床仕上面から梁下2300mmの位置に梁成120mm以上が納まるように設置してください。（左図④）

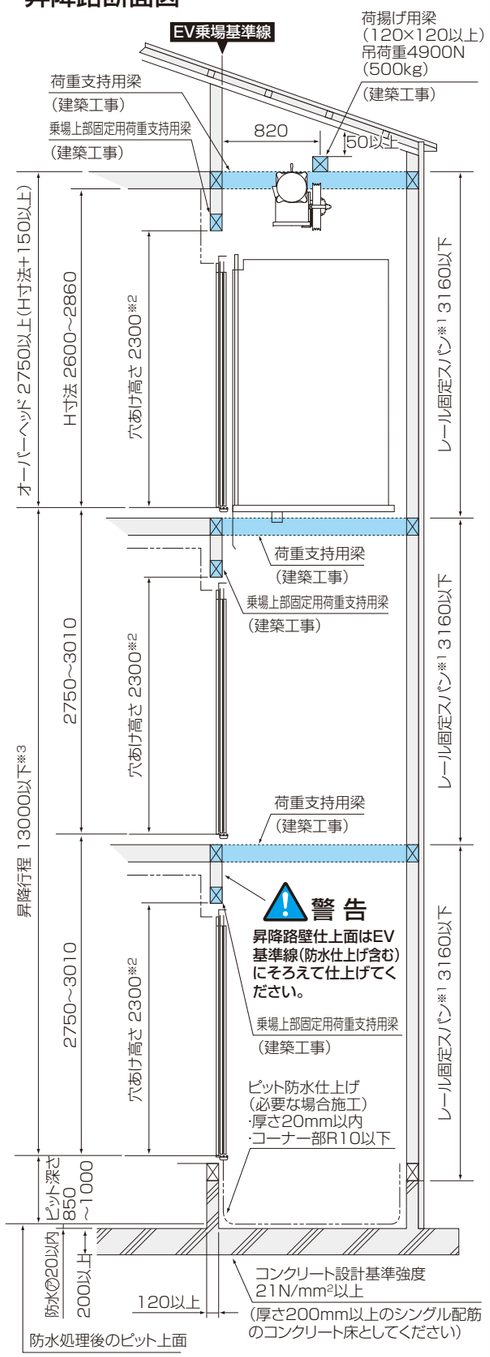


乗場およびレール〔固定用壁〕（最下階）

- レール固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の基礎の立上がりを設けてください。（左図③）また、防水施工の場合は防水面が乗場基準線となります。
- 乗場機器設置のために、基礎立上がり天端から床仕上面まで40～200mmの寸法を確保してください。



昇降路断面図



※1 レール固定スパンが3160mm以下となるように建築負荷荷重を受けるための構造物を設けてください。
※2 穴あけ高さ寸法を厳守してください。
※3 階間は10m以下としてください。（令第129条の7、平成20国告第1454号）詳しくは当社までお問い合わせください。

- EV乗場基準線とは、出入口側の昇降路内面を示します。
- EVレール基準線とは、勝手側の昇降路内面を示します。
- 階高指定寸法範囲の上限を超える場合は、中間部に梁を設けてください。
- 参考：1kgf=9.8N

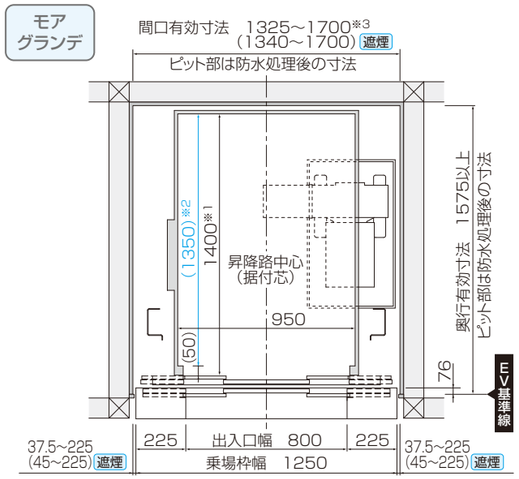
標準平面図

遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは69～74ページをご参照ください。
（遮煙の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。）

- ●下図の昇降路有効寸法を確保してください。
- ●電気･電話工事は75～79、81ページをご参照ください。
- ●EV基準線、二方向出入口の留意点につきましては11～14ページをご参照ください。
- ●昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。
- ●地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。

3人乗り･一方向出入口

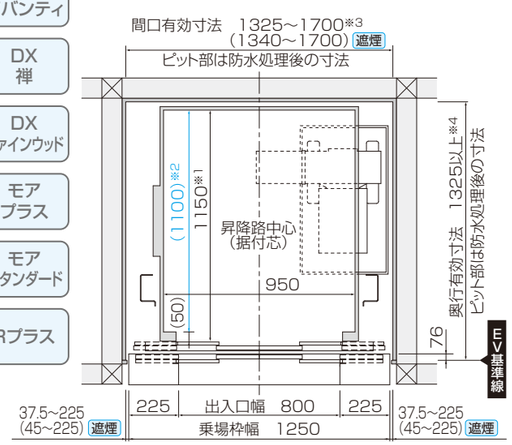
グランデ
モアグランデ



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、記載の値から踏込部の50mmを除いた1350mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

3人乗り･一方向出入口

ファミリー
DXアバンティ
DX禅
DXファインウッド
モアプラス
モアスタンダード
Rプラス

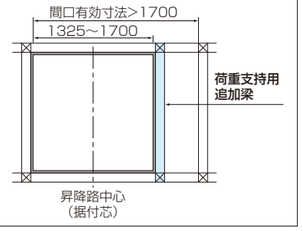


※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、記載の値から踏込部の50mmを除いた1100mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。
※4 昇降行程10m超仕様（オプション）適用の場合（ファミリー、DX一方向出入口のみ）、奥行有効寸法1350以上となります。

ワンポイント!

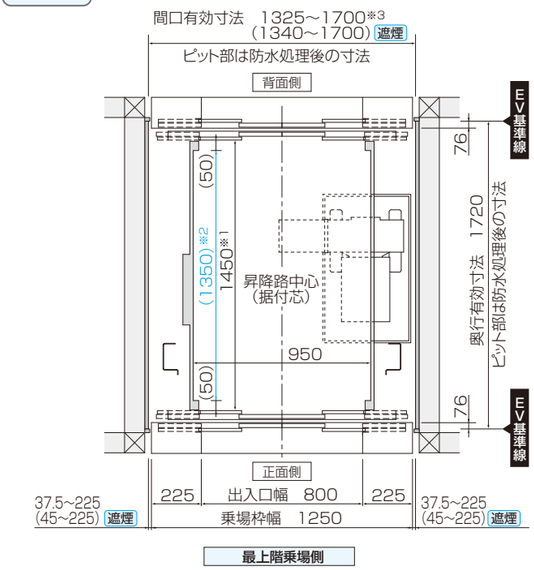
間口有効寸法>1700mmとなる場合

下図のように間口有効寸法が1700mmより大きい場合には、間口有効寸法が1325mm～1700mm（遮煙乗場ドア適用の場合は1340mm～1700mm）の範囲内となるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



3人乗り･二方向出入口

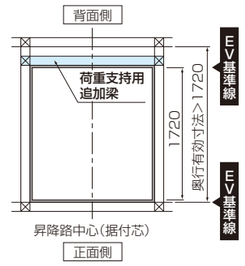
グランデ



ワンポイント!

奥行有効寸法>1720mmとなる場合

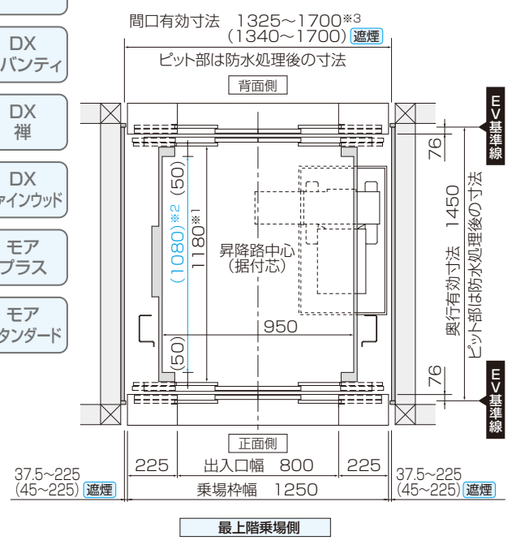
二方向出入口で下図のように奥行有効寸法が1720mmより大きい場合には、奥行有効寸法が1720mmとなるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた1350mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

3人乗り･二方向出入口

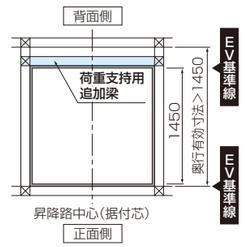
ファミリー
DXアバンティ
DX禅
DXファインウッド
モアプラス
モアスタンダード



ワンポイント!

奥行有効寸法>1450mmとなる場合

二方向出入口で下図のように奥行有効寸法が1450mmより大きい場合には、奥行有効寸法が1450mmとなるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた1080mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

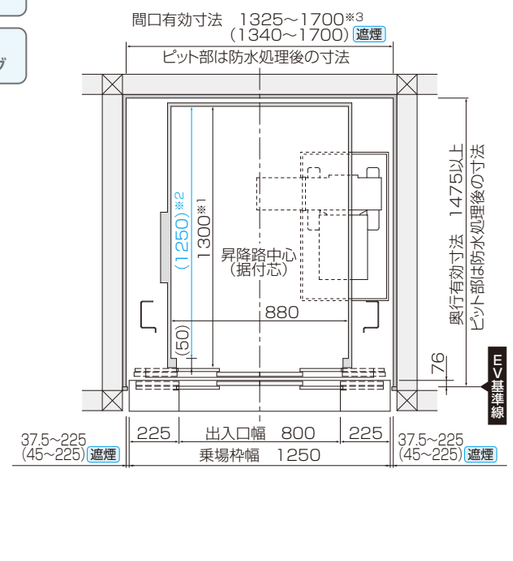
標準平面図

遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは69～74ページをご参照ください。
（遮煙の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。）

- ●下図の昇降路有効寸法を確保してください。
- ●電気･電話工事は75～78、81ページをご参照ください。
- ●EV基準線、二方向出入口の留意点につきましては11～14ページをご参照ください。
- ●昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。
- ●地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。

3人乗り･一方向出入口

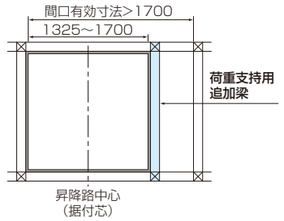
ファミロング
モアロング



ワンポイント!

間口有効寸法>1700mmとなる場合

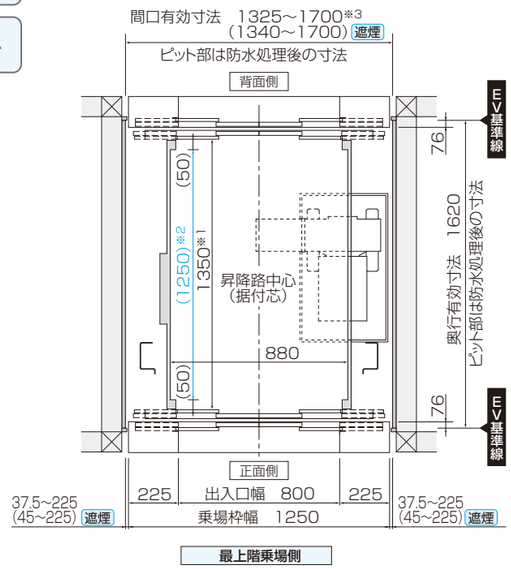
下図のように間口有効寸法が1700mmより大きい場合には、間口有効寸法が1325mm～1700mm（遮煙乗場ドア適用の場合は1340mm～1700mm）の範囲内となるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は記載の値から、踏込部の50mmを除いた1250mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

3人乗り･二方向出入口

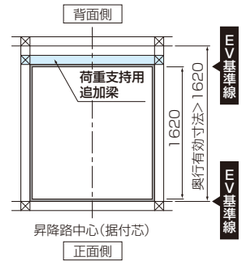
ファミロング
モアロング



ワンポイント!

奥行有効寸法>1620mmとなる場合

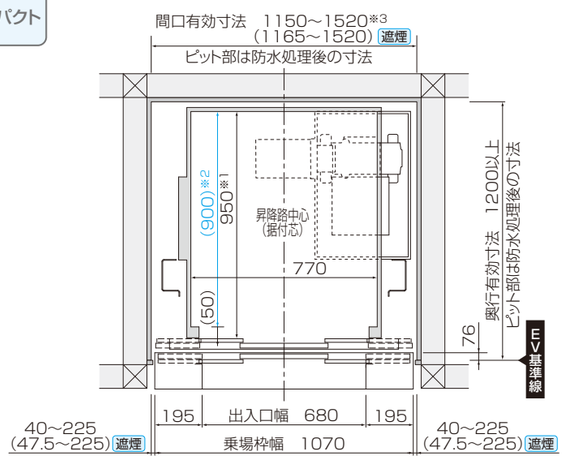
二方向出入口で下図のように奥行有効寸法が1620mmより大きい場合には、奥行有効寸法が1620mmとなるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた1250mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

2人乗り･一方向出入口

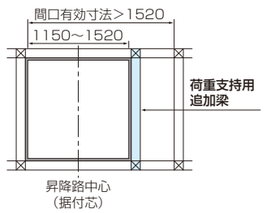
コンパクト



ワンポイント!

間口有効寸法>1520mmとなる場合

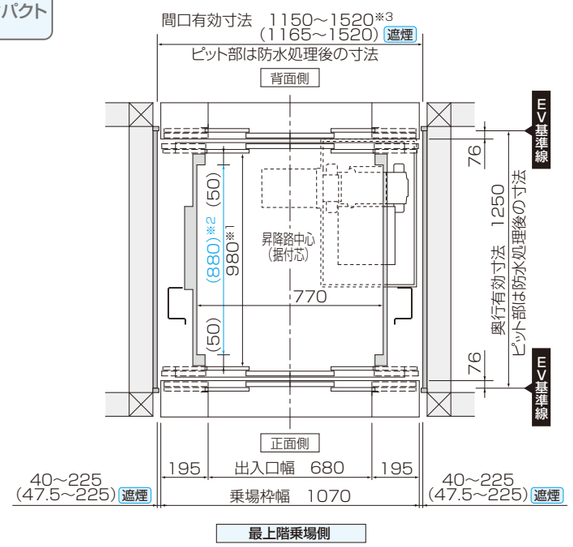
下図のように間口有効寸法が1520mmより大きい場合には、間口有効寸法が1150mm～1520mm（遮煙乗場ドア適用の場合は1165mm～1520mm）の範囲内となるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた900mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1520mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

2人乗り･二方向出入口

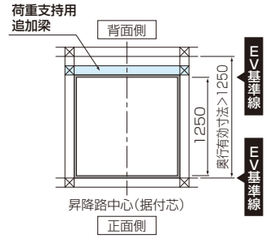
コンパクト



ワンポイント!

奥行有効寸法>1250mmとなる場合

二方向出入口で下図のように奥行有効寸法が1250mmより大きい場合には、奥行有効寸法が1250mmとなるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



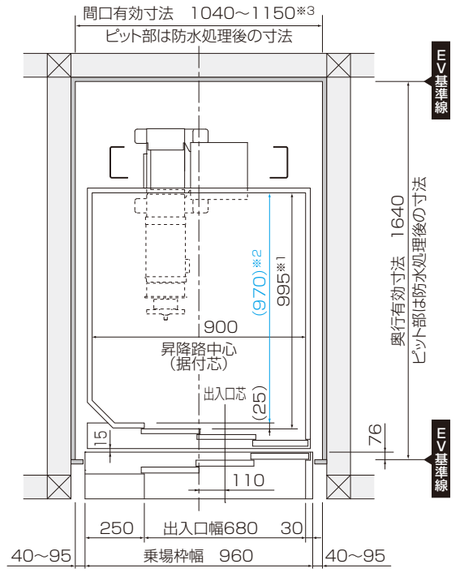
※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた880mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1520mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

標準平面図

●下図の昇降路有効寸法を確保してください。
●電気･電話工事は75～78、80、81ページをご参照ください。
●EV基準線の留意点につきましては11、15ページをご参照ください。
●昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。
●地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。

ファミスリム

3人乗り･一方向出入口

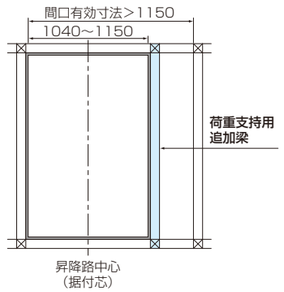


※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の25mmを除いた970mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1150mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

ワンポイント!

間口有効寸法>1150mmとなる場合

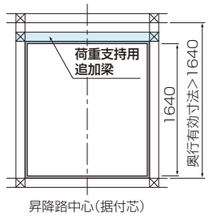
下図のように間口有効寸法が1150mmより大きい場合には、間口有効寸法が1040mm～1150mmの範囲内となるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



ワンポイント!

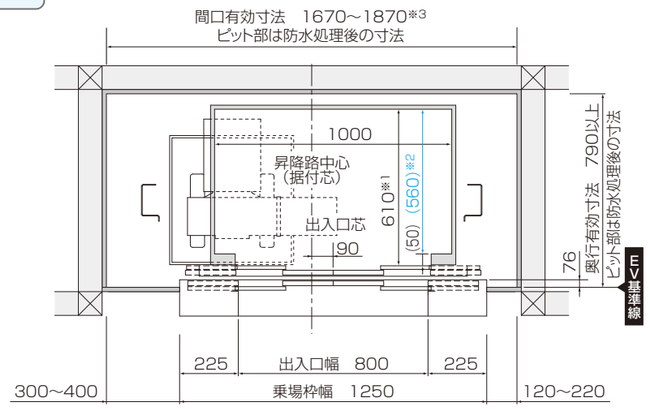
奥行有効寸法>1640mmとなる場合

下図のように奥行有効寸法が1640mmより大きい場合には、奥行有効寸法が1640mmとなるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



ジュニア

2人乗り･一方向出入口

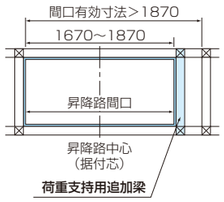


※1 確認申請及び建築基準法による、床面積計算時のルーム奥行寸法は、踏込部の50mmを除いた560mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部(センサー感知部分)を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1870mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

ワンポイント!

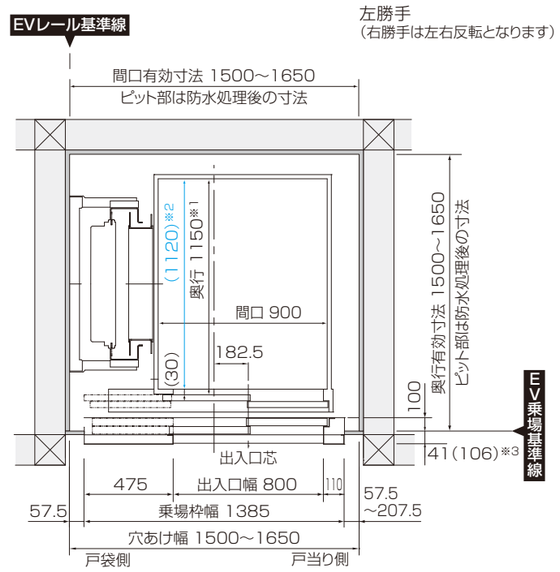
間口有効寸法>1870mmとなる場合

下図のように間口有効寸法が1870mmより大きい場合には、間口有効寸法が1670～1870mmの範囲内となるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



Rメート

3人乗り･一方向出入口

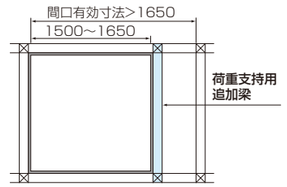


※1 確認申請および建築基準法による床面積計算時のルーム奥行寸法は、踏込部の30mmを除いた1120mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部を除いた奥行有効寸法となります。
※3 ( )内の数値は最上階を示します。

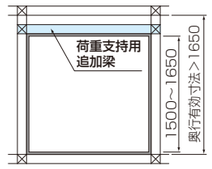
ワンポイント!

間口有効寸法>1650mmとなる場合

下図のように間口有効寸法が1650mmより大きい場合には、間口有効寸法が1500mm～1650mmの範囲内となるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



ワンポイント!

奥行有効寸法>1650mmとなる場合

下図のように奥行有効寸法が1650mmより大きい場合には、奥行有効寸法が1500～1650mmとなるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。